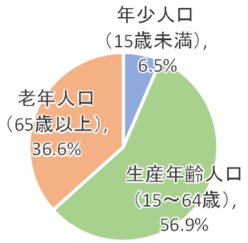
4－05

湯（ゆ）

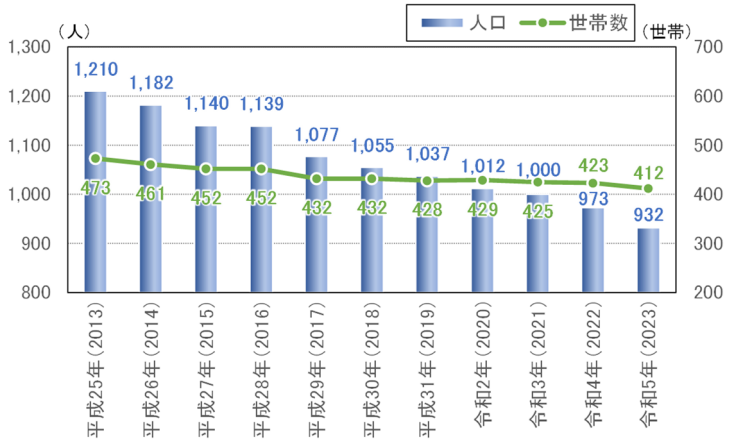
人口・世帯数等（令和５年４月）

人　　口	932 人
世 帯 数	412 世帯
高齢化率	36.6 %

年齢別人口割合



人口・世帯数の推移（過去10年間）



区域の概要

立　　地　集落の北西側を流れる春来川と鳥奥川・稲負谷川などに沿って家屋が密集する。周囲に山が迫る狭い谷間に温泉旅館・商店などがひしめいて湯村温泉街を形成する。

地名由来　遠い昔から湯の恩恵を慕って人が集まり住み、村をつくったためとされる。（「たじま地名考」日本海新聞）

歴 史 等　平城宮跡から天平（てんぴょう）8年（736）と推定されている「但馬国二方郡温泉」と書かれた木簡（もっかん）、但馬国分寺跡から天平神護（てんぴょうじんご）3年（767）頃の温泉郷の木簡が出土している。白毫山には中世の奈良氏の居城とされる温泉城がある。

近世の湯村は、天正（てんしょう）11年（1853）因幡国鳥取城主宮部（みやべ）氏領、慶長（けいちょう）6年（1601）同国若桜（わかさ）藩領、慶長10年（1605）旗本宮城氏知行（はたもとみやぎちぎょう）、寛永（かんえい）20年（1643）幕府領、寛文（かんぶん）8年（1668）からは豊岡藩領となった。天保（てんぽう）元年（1830）の宗門改帳では家数169・人数872。天保5年（1834）の『但馬国郷帳（たじまのくにごうちょう）』（天保郷帳）の村高（むらだか）は106石余。温泉は高温のため麻の浸漬、茹物等の利用が中心で、公衆浴場は1棟であったが、牛市が定期開催され、但馬牛を求めて集まった博労（ばくろう）の宿泊が旅館の増加につながった。

明治22年（1889）温泉村の大字となり、昭和2年（1927）からは温泉町の大字となる。明治24年（1891）の戸数237、人口は男621・女555。明治末期～昭和初期には荒湯の泉熱を利用して作られる柳行李（やなぎごうり）が特産品であった。昭和30年（1955）以降は観光客が増加し、昭和60年（1985）の旅館数32、料飲業26。

これまで把握している文化財

文化財の件数　161 件　　**（うち指定等文化財**　7 件）

大分類	中分類	小分類	把握件数			指定等
有形文化財	建造物	建築物	5	9	51	0
		石造物	3			0
		工作物・その他の構造物	1			0
	美術工芸品	彫刻	16	42		1
		絵画	2			1
		工芸品	21			0
		書跡・典籍	1			1
		古文書・歴史資料・考古資料	2			0
無形文化財		音楽	5	5		0
		演劇	0			0
		工芸技術	0			0
		その他の無形文化財	0			0
民俗文化財	有形の民俗文化財	信仰の場	6	64	86	0
		祭具	0			0
		民具	58			0
		その他の有形の民俗文化財	0			0
	無形の民俗文化財	年中行事・民俗芸能	8	22		2
		民俗技術	0			0
		食文化	2			0
		民間説話・俗信	12			0
		その他の無形の民俗文化財	0			0
記念物	遺跡	散布地・集落跡・生産遺跡	2	11	18	0
		古墳・その他の墓	4			0
		城館跡・寺社跡	3			1
		街道・古道等	2			0
		戦争遺跡	0			0
		その他の遺跡	0			0
	名勝地	山岳・高原・丘陵	1	2		0
		海岸・海浜・島嶼	0			0
		河川・滝・渓谷・湖沼	0			0
		公園・庭園	1			0
		その他の名勝地	0			0
	動物・植物・地質鉱物	動物	0	5		0
		植物	3			1
		地質鉱物	2			0
文化的景観		生活･生業･風土により形成された景観地			1	0
伝統的建造物群		宿場町・城下町・農漁村等			0	0

湯八幡神社

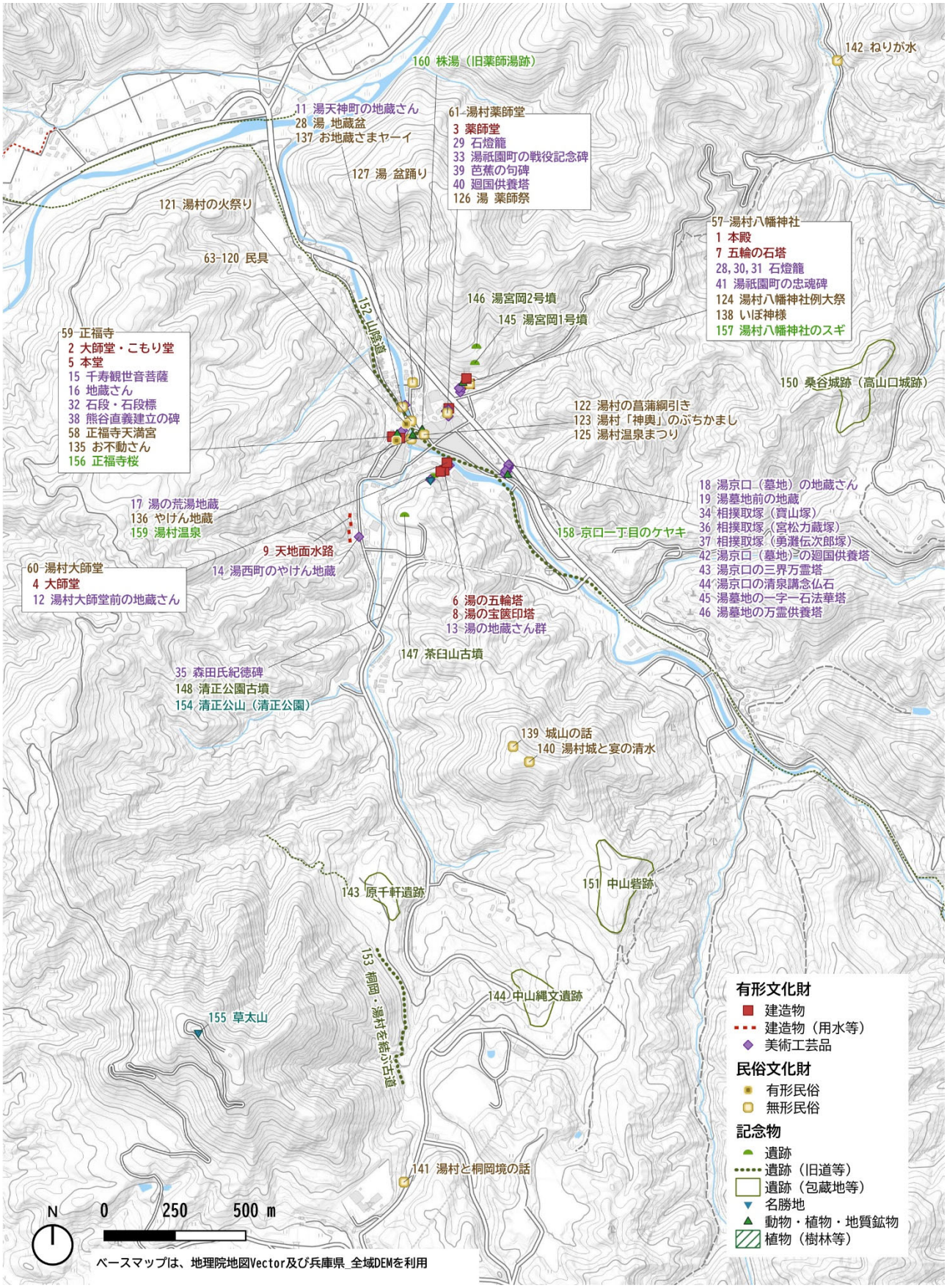
不動明王立像

湯村菖蒲綱引き

正福寺桜

※人口・世帯数は住民基本台帳（令和５年４月現在）による。

文化財の分布



※所在地の掲載可能なものに限る

文化財の一覧

■ 有形文化財／建造物

分類	番号	名称	概要
建築物	1	湯村八幡神社本殿	明和5年（1768）に再建されたもの。
	2	正福寺の大師堂・こもり堂	正福寺境内にあるこもり堂の柱には、今も当時の墨がしみ込んでいる。
	3	湯村薬師堂のお堂	現在の薬師堂の建物はおよそ300年前の江戸中期のものとされ、本堂には薬師如来像が安置されている。本堂の天井には184枚もの板絵がはめ込まれており、草花や霊獣などが描かれている。
	4	湯村大師堂のお堂	三好屋（現湯快リゾート）の敷地内にある。弘法大師を祀る大師堂は正福寺の管轄で現在は湯村の一部の方が管理をされている。
	5	正福寺本堂	文和4年（1355）に開山、応永19年（1412）に造営した正福寺は宝暦9年（1759）と明和4年（1767）に焼失したが、安永10年（1781）に再度造営し現在に至る。
石造物	6	湯の五輪塔	45×24cm の五輪塔の一部。清正公園登り路の傍らにある。数年前にどこからか移転したと思われる。
	7	湯村八幡神社の五輪の石塔	八幡神社境内に位置する高さ約4mの石塔。社に伝わる古文書によると、萬度の法華経を読み、この時の一切の品物を土中に埋め、その上に建立したものという。氏子や地元の人々は「千年釜」と呼ぶ。また、地元では別名「いぼ神様」といい、「いぼいぼ渡れ、この橋渡れ」と唱えつついぼに触れた指先を石に触れるといぼがとれるといわれている。
	8	湯の宝篋印塔	宝篋印塔の一部。清正公園登り路の傍らにある。数年前にどこからか移転したと思われる。
工作物・その他の構造物	9	天地面水路	近世以前のかなり古くに築造された水路。水路延長 200m、灌漑面積1.18ha。取入口は天地面井堰、排水口は稲負谷川。

■ 有形文化財／美術工芸品

分類	番号	名称	概要
彫刻	10	木造不動明王立像	湯村の正福寺に祀られている。桂の木の一木造り。面貌は引き締まり怒りの表情が少ない。衣文には翻波式手法が見られ全体的に作風は素朴であり、この地方で作られたものと思われる。高さ134.5cmで平安中期以前の作と推定される。21年毎に開帳される仏で、近年は平成16年（2004）に開帳された。 県指定重要有形文化財
	11	湯天神町の地蔵さん（1814年建立）	55×40cmの石像。元は道の北側の民家の間に野ざらしであったが、戦後、現在地に移転した。傷みがはげしい。台石正面には「三界萬霊」、右面に「文化十一(1814)甲戌三月」と願主が刻まれている。祠には、「子供災害守本尊、交通災害守本尊」と記されている。
	12	湯村大師堂前の地蔵さん	50×25cmの石像。大師堂前の緑樹の横に祀っている。大小2体のささやかで精巧なもの。
	13	湯の地蔵さん群	石像（小像）21体が横に並び、横箱に収まっている。湯けむり広場の上に位置する。素人の作品と思われるが、素朴で味がある。
	14	湯西町のやけん地蔵	かつては村の中に安置してあったが、村の火災にも焼けなかったので、村はずれに移し「やけん地蔵」と呼んだと言われている。素朴で味のある石像3体。一番大きなものは136×39cm。
	15	正福寺の千寿観世音菩薩	54×34cm の石像。正福寺の境内に祀ってある。台座もしっかりとしたもので、外形も美しい。
	16	正福寺の地蔵さん	正福寺の山門下北側の石段側に立てられている石像 4 体。大きなものは74×50cm。かつては3体であったが、明治期に子どもの死亡によって小さな石像が置かれた。

分類	番号	名称	概要
彫刻	17	湯の荒湯地蔵 （1868 年建立）	荒湯南側の屋根を葺いた立派な堂の中に 3 体ある。大きいものは 83×56cm。昔は荒湯の囲いもなく、燈火も乏しかったため、荒湯の中に誤って落ちて亡くなる人が多かったため、その慰霊のために建立したと考えられている。台座正面に「萬霊供養」、左に「世話人」、右に「慶應四（1868）戊辰三月」と刻まれている。
	18	湯京口（墓地）の地蔵さん （1725 年建立）	90×27cm の石像（地蔵像）。京口 1 丁目から国道へ出る道端・墓地内に立つ。享保 10 年（1725）建立。
	19	湯墓地前の地蔵	旧山陰道沿いに位置する。墓地前の低い間知石擁壁の一部に小祠が埋め込まれ、安置されている。
	20	湯村大師堂横の不動さん	76×38cm の石像（不動明王像）。大師堂横の山肌をくりぬいて祀ってある。昭和前期の制作と思われる。
	21	十二神将像	湯村薬師堂内に安置されている十二神将像。
	22	薬師如来像	湯村薬師堂内に安置されている薬師如来像。
	23	日光・月光菩薩像	湯村薬師堂内に安置されている日光・月光菩薩像。
	24	薬師如来前立	湯村薬師堂内に安置されている薬師如来前立。
	25	ベンズル坐像	湯村薬師堂内に安置されているベンズル坐像。
絵画	26	湯村温泉図	旧温泉町出身の画家である立脇泰山の作品である。町内で約 200 点あるといわれる作品数の中で、この画は昔日の荒湯付近の様相を写生によって原形をとどめた唯一の作品である。氏の作品は、ぼかしにかけては師の竹内栖鳳をしのぐとされている。歴史的に見ても貴重な作品である。早期の作品。形状は本表装たて、大きさは縦 129.5cm×横 29cm。 町指定文化財
	27	湯村薬師堂の天井絵	慈覚大師を祀ったといわれる薬師堂には、天井絵などが現在も残る。
工芸品	28	湯村八幡神社の石燈籠 （1774 年建立）	安永 3 年（1774）8 月建立。丸毛宇平・丸毛平兵ヱ寄進。石材は花崗岩。四角柱。切石敷の上に基礎二重を置く。竿は長い目の撥型。中台の側面は無地、上端は平たい。火袋は前後打抜、左右日・月。笠の上端にはむくりがあり、軒裏は直線的で平たい。火袋が小さい。
	29	湯村薬師堂の石燈籠 （1798 年建立）	寛政 10 年（1798）4 月 8 日建立。六角形。当所・太兵衛ほか各地 6 人の寄進。蓮華弁はいずれも小花をともなう六葉の素弁だが、露盤（六角形）の上端に反花が刻んであるのは但馬唯一のもので珍しい。但馬における当時の石燈籠としては装飾的なものである。
	30	湯村八幡神社の石燈籠 （1817 年建立）	文化 14 年（1817）8 月建立。福嶋幸左衛門光茂・井上與一忠告寄進。石材は地場産のもの。基礎は五重、うち下位三重は切石積。竿は長い目の撥型。軒裏には化粧垂木と隅木を彫る。軒口の極めて薄いのが目につく。全体的に風化が進む。この神社にある石燈籠の多くは、石材に地場産の粗軟な泥岩を用いているために風化が甚だしい。
	31	湯村八幡神社の石燈籠 （1820 年建立）	文政 3 年（1820）6 月建立。乾政五郎・森田治良右衛門ほか 15 人講中寄進。石材は地場産のもの。基礎は三重、うち最下重は切石敷。この燈籠の特徴は、寶形造りの屋根のような形をした寶珠にある。小さいがこのようなものは但馬に少なく、小さな寶珠と露盤が笠と一石でつくられているのは珍しい。
	32	正福寺の石段・石段標 （1800 年建立）	正福寺正面の石段。かつては 55 段であったが、現在は 52 段である。石段最高部の両脇に「願主檀家若連中」「寛政十二年初秋、石山寄付哥長村」と刻まれている。
	33	湯祇園町の戦役記念碑	170×60cm の石碑。薬師堂の後方に立つ。正面には「明治卅七八年戦役紀念」と記されている。
	34	相撲取塚 （寶山塚）	150×80cm の石碑（相撲取塚）。かつては温泉小学校下の道端に建てられており、後に宮の境内に移され、国道 9 号改修後に現在地に移された。元治 2 年（1865）建立。

分類	番号	名称	概要
工芸品	35	森田氏紀徳碑	300×56cm の石碑。清正公園の頂上にある。大正 9 年（1920）11 月建立。森田氏は当時、神戸商工会議所副会頭であった。
	36	相撲取塚 （宮松力蔵塚）	100×40cm の石碑。自然石型。道路改修とともに現在地（京口）に移転されたもの。相撲取塚と思われる。
	37	相撲取塚 （勇灘伝次郎塚）	110×42cm の石碑。明治 7 年（1874）建立。かつては国道東側に向いた堂々たる塚であった。湯村の入口に七美郡・二方郡の弟子が協力して建てた相撲取塚。台座を三段にして建てている。
	38	熊谷直義建立の碑	慶安の乱（由井正雪の乱）の四天王である熊谷直義が、生前に両親に孝養のために建立した石碑。寛文 13 年（1673）3 月建立。
	39	芭蕉の句碑	「けふばかり 人もとしよれ 初しぐれ」。天保 3 年（1832）10 月に森田因山らの俳諧社中によって建立された句碑。高さ 90cm、幅 65cm。
	40	湯村薬師堂の廻国供養塔 （1798 年建立）	210×120cm の石碑。薬師堂後方に芭蕉句碑と並び立つ。寛政 10 年（1798）建立。正面中央に「奉納大乗妙典中供養」と刻まれている。
	41	湯祇園町の忠魂碑 （1922 年建立）	158×80cm の石碑。かつては中央広場に置かれていたが、戦後にお宮の広場東側の現在地に移された。正面に「忠魂碑」と刻まれている。大正 11 年（1922）9 月建立。川村元帥書。碑を囲んで玉垣があり、台石も数個を積み、ツツジの植樹で別天地を形作っている。
	42	湯京口（墓地）の廻国供養塔 （1721 年建立）	200×80cm の石碑。京口一丁目から国道へ出る道端・墓地内に立つ。正面に「奉納大乗妙典」の文字が刻まれている。享保 6 年（1721）8 月建立。
	43	湯京口の三界万霊塔	100×60cm の石碑。建立年は不明。道路完成時にどこからか移転してもってきたものと思われる。正面に「三界萬霊」の文字が刻まれている。
	44	湯京口の清泉講念仏石	126×88cm の石碑。自然石型。南無阿弥陀仏の文字を中央に、その左に沿って一声称念仏、罪皆云々の信念を記し、右側に清泉講と記してある。建立年は不明。
	45	湯墓地の一字一石法華塔 （1807 年建立）	文化 4 年（1807）造立の一字一石法華塔。旧山陰街道沿いの京口一丁目の墓地内に位置する。
	46	湯墓地の万霊供養塔	旧山陰街道沿いの京口一丁目の墓地内に位置する。
	47	熊谷直義の薙刀（長巻）	正福寺蔵。慶安の乱（由井正雪の乱）の四天王である熊谷直義の遺品の薙刀（長巻）。
	48	熊谷直義の茶釜	正福寺蔵。慶安の乱（由井正雪の乱）の四天王である熊谷直義の遺品の茶釜。
書跡・典籍	49	宗門御改帳	案文ではあるが、当時（文政 13 年）の人畜穀高等が克明に記載されており、この頃の湯村の民政また経済などの諸事情が解明できる貴重な歴史的資料である。冊子でコヨリ綴、裏表紙共 180 枚。 町指定文化財
古文書・ 歴史資料・ 考古資料	50	紫藤養老集	弘化元年（1844）9 月の上梓。「二方」の俳人の名が多数あげられているが村名は不明である。
	51	医王酉奉額四時発句集	湯村の医王酉なる薬師堂に奉納された句百点が記されている。文久元年（1661）のもので筆書である。撰者は芭蕉堂五世の公成。千谷村の和竹は巻頭をとる。なお湯村の薬師堂に額はない。

■ 無形文化財

分類	番号	名称	概要
音楽	52	湯村だんじり音頭	※『温泉町郷土読本』（昭和 42 年。温泉町教育研修所調査部）p192 参照
	53	湯村節	※『温泉町郷土読本』（昭和 42 年。温泉町教育研修所調査部）p192 参照
	54	湯村小唄	※『温泉町郷土読本』（昭和 42 年。温泉町教育研修所調査部）p192 参照
	55	湯村音頭	※『温泉町郷土読本』（昭和 42 年。温泉町教育研修所調査部）p193 参照
	56	湯村夜曲	※『温泉町郷土読本』（昭和 42 年。温泉町教育研修所調査部）p193 参照

■ 民俗文化財／有形の民俗文化財

分類	番号	名称	概要
信仰の場	57	湯村八幡神社	祭神は応神天皇、息長足姫命、比売大神（応神天皇皇后）。創立年月は明確でないが、およそ 900 年前と思われる。鎌倉時代、石清水八幡宮であるとの説もある。太田文には、勝楽寺別宮 51 反（神領）とある。勝楽寺は前村にある正楽寺のことである。社領をもち、因幡池田藩士尾崎孝重が献燈一対をしている。明治 6 年（1873）3 月に村社となる。
	58	正福寺の天満宮	縁起文に「…白鬚明神のお告げにより比良山（滋賀県）の天満宮を正福寺の鎮守の神として祀る…」とある。何故天満宮をもって鎮守の神としたかは不明であるが、勧請当時、学問奨励の時代であったことから、学問の神を勧請したとも考えられる。
	59	正福寺	山号は天龍山。伝教大使最澄が延暦 25 年（806）に創立した天台宗の流れを汲む寺院。貞享 2 年（1684）の火事で、創建は不明であるが、室町時代の五輪塔があることから、それ以前の建立とされる。元禄元年（1688）、病魔降伏不動明王（木造不動明王立像）を遷座して、元禄 3 年（1690）に中興する。但馬七花寺霊場の一つで、正福寺桜が境内を荘厳する。山門前の供養塔は慶安の乱（由井正雪の乱）の四天王の一人である熊谷直義が両親のために建立したものである。直義はこの地に流浪し、元禄 4 年（1691）7 月 10 日に病没。義直の遺品の薙刀（長巻）と茶釜が所蔵されている。
	60	湯村大師堂	清正公園入口に位置する。大師堂横には不動尊石像も祀られている。
	61	湯村薬師堂	桓武天皇の朝、延暦年中、天台座主第 3 世慈覚大師がこの地に行脚の砌り、弘仁 13 年（822）に温泉を発見して以来、貞観 17 年（875）に本尊薬師如来を勧請して堂を建立。慈覚大師の尊像も本尊の側に祀ってあったが、前のお堂を元禄 10 年（1697）に再建、今の場所に移してより大師の尊像は正福寺に祀ってある。
	62	正福寺の愛宕堂	愛宕堂の記録は、史料（寺社御改帳・二方考抄）に「愛宕堂再造」（明和 3 年（1766））とあるのみで、勧請の由来も年月日も不明である。本尊は将軍地蔵菩薩で、元々正福寺の裏山（愛宕山）の山上に祀られてあったものを安政 4 年（1857）に現在地に遷座したもの。旧跡地や参道は木々に覆われて堂跡のみがかすかに昔をしのばせる。
民具	63 ～ 120	※酒造道具	杜氏館所蔵の酒造りに関連する道具。合計 58 件、74 点。 杉玉、釜、甑、桶、樽、洗米ざる、深靴、蒸し下駄、ぶんじ、かすり、酒袋、徳利、種子こうじなど。

■ 民俗文化財／無形の民俗文化財

分類	番号	名称	概要
年中行事・ 民俗芸能	121	湯村の火祭り	春来川を囲んで、地元の子ども会の手で繰り広げられる。「ジーロンポ、ターロンポ、ムーギのナーカのクーロンポ」と唱え、高ぶる心や心の病気を焼き払い、水に流してきれいな心にと祈る。この火祭りの由来を裏づけるものはないが、日本各地の同種のものを見ると、多くは危難消除や無病息災を祈り、また五穀豊穣を祈るものが多くある。比良山の天満宮奥の院に次郎坊という天狗が祭られ、また京都の愛宕神社の奥の院に太郎坊なる天狗が祭られており、正福寺裏山には愛宕神社、境内には比良山の天満宮を勧請したと伝わる天満宮があり、天満・愛宕両社の祭事との関係がうかがえる。 町指定文化財
	122	湯村の菖蒲綱引き	湯村温泉の開祖・慈覚大師への感謝と子ども達の健やかな成長を祈願するお祭りの奉賛行事として行われていたが、一時期途絶えた。しかし、昭和 54 年（1979）に区民の熱意により 22 年ぶりに復活し、現在に至る。菖蒲綱は、直径 50～60cm、長さ 100m、重さ 4ｔにもなる。縄ないの行事は、祭りの前日に小学校のグラウンドで区民総出で行われる。この行事は、毎年 6 月の第 1 日曜日の 16 時から湯村温泉街で行われる。 町指定文化財

4－05 湯

分類	番号	名称	概要
年中行事・民俗芸能	123	湯村「神輿」のぶちかまし	9 月 15 日に行われる。神功皇后・応神天皇が祭られている「八幡神社」の祭礼で、明治 25 年以降に始まったとされる。この神輿は、もとは香美町香住区一日市の八坂神社の神輿を、明治 25 年（1892）に譲り受けたもの。昭和 34・35 年（1959・1960）頃までは青年団が中心となり行われていたが、現在は祭りの為に区内の消防団員と青年有志で結成する「八幡会」が主催し、氏子をはじめ区内で働く若者も参加して祭りを盛り上げている。
	124	湯村八幡神社例大祭	概要不明
	125	湯村温泉まつり	湯村温泉の開祖慈覚大師への感謝と子ども達の健やかな成長を祈願する祭り。子どもの健やかな成長を願う祭りにふさわしく、湯村温泉の中心を流れる春来川沿いに武者絵ののぼりが立つ。各種の路上出展を楽しむ子供たちでにぎわう。名物の大綱引きは、長さ約 100m、重さ約 4t、直径 50～60ｃｍもあり地元住民と観光客が一緒になり勝運を競う。
	126	湯 薬師祭	薬師如来と湯村温泉を発見したとされる慈覚大師に感謝する祭りで、湯村薬師堂において、年 4 回（1、6、7、11 月）開催される。正福寺住職の読経と湯区の役員や念仏講の方々が集まり念仏が行われる。
	127	湯 盆踊り	8 月 14 日・15 日に昔は八幡神社境内で先祖を敬うため一晩中踊り明かした。現在は薬師湯の駐車場で行っている。
	128	湯 地蔵盆	8 月 24 日に繁栄橋の隅にあるお地蔵を参拝する盂蘭盆行事。湯村では先祖の供養を図るため、荒湯付近で火祭りを行っている。
食文化	129	きんちゃんおかず	郷土食。里芋や大根、こんにゃくなどを大きな鍋で煮込み、砂糖・みりん・醤油、だしの素などで煮込んだこの地方の郷土料理。各家庭ではんぺんや油揚げ、豆腐の粉など入れる家庭もある。
	130	湯がき文化	湯村温泉では、共有の泉源である荒湯があり、これを利用して野菜や卵などを湯がく「湯がき文化」が古くから根付いている。
民間説話・俗信	131	湯と慈覚大師	※『但馬・温泉町の民話と伝説』（昭和 59 年、喜尚晃子編纂、手鞠文庫発行）p118 参照
	132	赤いご飯	※『但馬・温泉町の民話と伝説』（昭和 59 年、喜尚晃子編纂、手鞠文庫発行）p127 参照
	133	雪女	※『但馬・温泉町の民話と伝説』（昭和 59 年、喜尚晃子編纂、手鞠文庫発行）p132 参照
	134	因幡堂	※『但馬・温泉町の民話と伝説』（昭和 59 年、喜尚晃子編纂、手鞠文庫発行）p195 参照
	135	お不動さん	※『但馬・温泉町の民話と伝説』（昭和 59 年、喜尚晃子編纂、手鞠文庫発行）p61 参照
	136	やけん地蔵	※『但馬・温泉町の民話と伝説』（昭和 59 年、喜尚晃子編纂、手鞠文庫発行）p63 参照
	137	お地蔵さまヤーイ	※『但馬・温泉町の民話と伝説』（昭和 59 年、喜尚晃子編纂、手鞠文庫発行）p68 参照
	138	いぼ神様	※『但馬・温泉町の民話と伝説』（昭和 59 年、喜尚晃子編纂、手鞠文庫発行）p172 参照
	139	城山の話	※『但馬・温泉町の民話と伝説』（昭和 59 年、喜尚晃子編纂、手鞠文庫発行）p130 参照
	140	湯村城と宴の清水	※『但馬・温泉町の民話と伝説』（昭和 59 年、喜尚晃子編纂、手鞠文庫発行）p133 参照
	141	湯村と桐岡境の話	※『但馬・温泉町の民話と伝説』（昭和 59 年、喜尚晃子編纂、手鞠文庫発行）p160 参照
	142	ねりが水	※『温泉町郷土読本』（昭和 42 年、温泉町教育研修所調査部編集）p217 参照

■ 記念物／遺跡

分類	番号	名称	概要
散布地・集落跡・生産遺跡等	143	原千軒遺跡	須恵器片や中世陶器片が広範囲に散布している。
	144	中山縄文遺跡	縄文時代の石器や剥片が散布している。
古墳・その他の墓	145	湯宮岡1号墳	古墳時代の古墳。リフレッシュパーク入口の北側に並ぶ小円墳2基。
	146	湯宮岡2号墳	
	147	茶臼山古墳	古墳時代の古墳。造成された広場の端に頭部に石を置いた墓壙基底部2基が露出していたが、駐車場整備の際に壊されている。
	148	清正公園古墳	古墳時代の古墳。半分削られた尾根の稜線上に4基の土壙墓が露出している。
城館跡・寺社跡	149	温泉城	標高338mの白毫山に位置する「温泉城（白毫山城跡）」は、主郭を中心に三方向に伸びる尾根に十数段の曲輪を持ち、各々に竪堀や堀切を形成している。また曲輪の形から南北朝時代に起源をもち、戦国期には大改修が行われたと想定される。「二方考」によると、城主は奈良左近とされ、延文元年（1356）に北朝軍の今川義貞が温泉城を攻撃した際に、南朝軍に与同していた人物とされる。城は天正9年（1581）に豊臣秀吉の鳥取城攻めの際に落城したとされる。 町指定文化財
	150	桑谷城跡（高山口城跡）	中世の城館跡。曲輪の規模が比較的小さく、断続的な曲輪配置から、南北朝期に築城起源をもつと思われる。主尾根の切岸の高い曲輪や規模の大きな堀切・竪堀や谷部を防御する大規模なハの字の竪堀などは戦国末期の補強・改修をうかがわせる。位置的には温泉城とともに山陰道を抑える重要な城として構築されたと考えられ、戦国末期には、温泉城とともに「垣屋豊続の要害」として改修されたとも考えられる。
	151	中山砦跡	中世の城館跡。和牛試験地の東上の尾根にある白毫山域の砦跡。
街道・古道等	152	山陰道	古代山陰道のルートは、村岡から春来峠を越えて伊角・熊谷を通って井土に出て、その後、岸田川沿いを西へ向かい、蒲生峠を越えて因幡国に入るルートが有力と考えられており、ほぼ現在の国道9号に該当する。律令時代の官衙遺跡は井土に集中し、中でも古代山陰道の「面治駅」は竹田の面沼神社付近とされる。
	153	桐岡・湯村を結ぶ古道	概要不明

■ 記念物／名勝地

分類	番号	名称	概要
公園・庭園	154	清正公山（清正公園）	湯村温泉街の中心部にある高台で温泉街が一望できる公園。春の桜、秋の紅葉は大変美しく湯村温泉で気軽に自然散策を楽しめる。名前の由来は加藤清正にちなむもので、法華経を信仰する町の人々が熊本へ出向き、加藤清正の護神をさずかって持ち帰り、現清正公園に奉り清正公様といっていた。その後、当町出身の森田金蔵代議士により、現在建立されている碑（白豪山の由来が書かれてある）が出来てから清正公山というようになり、観光客にも親しまれる公園になった。
山岳・高原・丘陵	155	草太山	頂上から浜坂海岸が一望できる。今は幻のキノコとなりつつある香茸も自生している。

■ 記念物／動物・植物・地質鉱物

分類	番号	名称	概要
植物	156	正福寺桜	植物学者の牧野富太郎氏により、学名「プルヌス　タジマエンシス　マキノ」と付けられ、和名を「正福寺桜」という。ヤマザクラとキンキマメザクラの交配種で、特徴は、ガク片（花びら）が 10 枚で 1 花をつつみ、めしべが 1 つの花から 1 ～6 本、1 果より 6 果を結ぶ花として、非常に珍しい種類の桜である。開花の時期は 4 月上旬から中旬にあたり、満開になる。現存する木は 2 代目で、山門をくぐった正面に位置する。 町指定文化財
	157	湯村八幡神社のスギ	夫婦スギ。根元部には夫婦神社の小祠があり、夫婦神社の御神木とされる。推定樹齢は約 500 年。縁結び、夫婦和合、子宝を神徳とする。
	158	京口一丁目のケヤキ	旧山陰道沿い、京口一丁目の墓地の角地に位置する。遠方からもよく見えるケヤキの巨木で、地域のランドマークになっている。
地質鉱物	159	湯村温泉	山陰型花崗岩と北但層群を境する断層に沿う単純温泉。源泉温度 95.3℃。兵庫県レッドリスト（地質）では要注目（温泉・湧水などのように地質以外の分野の自然現象のうち、地質との関連性があり重要とみなされるもの）に位置付けられている。
	160	株湯（旧薬師湯跡）	湯村温泉の泉源の一つで、98 度の温泉が毎分 300ℓ 沸出している。ここにはかつて薬師湯があったが、平成 20 年（2008）に移転した。

■ 文化的景観

分類	番号	名称	概要
生活・生業・風土により形成された景観地	161	湯村地区の景観	兵庫県景観形成地区の景観ガイドラインでは、湯・細田地区の景観の特徴を「観光施設と一般住宅の混在がもたらす景観」、「地区内を流れる川がつくる景観」、「伝統的な町家の形式と伝統的な素材」、「まちなかを散策する観光客がつくる景観」、「大規模建築物がつくる景観」、「地域を取り巻く地形と豊かな自然が織りなす景観」と整理している。 県指定まちなか景観形成地区

自治会の区域における歴史文化・文化財の記録作成等の取組

・『正福寺話』

（平成 20 年 10 月 30 日第三版、熊谷亮澄著、熊谷俊美編、天龍山正福寺一山円命院発行）